

池谷 薫 IKEYA kaoru

「極私的」ドキュメンタリーが映し出すもの



卒業制作の仕上げ作業中のM

とき、私のワークシヨップを受講したのがきっかけで知り合った。どちらかというと人と接するのが苦手な彼は、ある日主旨のカメラマンたちが撮った風景写真集を私に見せ、彼らを撮りたいとおぼすおぼすと切り出した。一年後、Mの卒業制作を指導することになった私は、当然彼が同じテーマで撮るものと思っていた。ところが卒制テーマの発表の場で、Mは別の障害を抱えた人物を撮りたいと申し出るや、人目も憚らず泣き出したのである。

聞けば、彼には二歳違いの妹がおり、その妹は重度の自閉症で家に引きこもっていた。その妹を撮るといふのが、小学生のとき、同級生が障害児を差別するのを見たMは、それがトラウマとなつて自分の妹が自閉症であることを隠すようになったという。タブーとなつた妹の存在以来、彼女を真正面から見つめるのをやめた。

それが、なぜいま妹を撮るのか。Mの真意を確かめたかった私は、そのことを家族がどのように考えているのか話し合う様子を撮影するよう提案した。

母親と彼の対話を見た私は、不覚にも涙した。そこには父親が交通事故で亡くなつて以来、親子三人が懸命に生きてきた事実が淡々と語られていたからだ。さらにその対話から、Mが妹に関心を寄せたことを母親が素直に喜んでることを知った。母親は、もし自分に何かあったら、妹の面倒を見るのは彼しかないと思つていて、だに息子には過度の負担をかけたくない。だから自分からその話を切り出すのを控えていたのだ。

おそらくはMもそのことをひしひしと感じていたのだろう。テープを見せ終わると、「社会に出る前に、どうして

もこれだけはやっておきたかった」と彼は言った。こうして始まったMのセルフ・ドキュメンタリーは、母と妹の葛藤を中心に、ときに壮絶といえるほど激しく、ときにホームムービーの穏やかな温もりを持つて、支え合う家族を映し出していった。自由奔放な振る舞いでいつも周囲を驚かせる妹。何があつてもそれを真正面から受け止める母。そして歯を喰いしばつてカメラを向け続ける兄。ラッシュを観るたびに、私はそこに映る大切な何かに心を動かされていた。

ある日、こんなシーンが撮り上がってきた。小遣いを使い果たした妹がそれでも買物に行くと言出し、ついにクロゼットにしまわれた母親の金を持ち出すという「犯行」に及んだのだ。激怒した母親との間で取っ組み合いのけんかが始まり、それは延々と続いた。だがその最中にも妹はカメラに向かっておどけたポーズをとり、母親は娘に強く頬を引つ張られても笑みを浮かべている。私は一見修羅場に見えるこのシーンに、人間同士が裸でぶつかり合う強烈なエネルギーを感じ、それでいてどこか互いを気遣う普遍的な家族愛を感じた。

実はこの頃、私は母の介護問題を抱えていた。認知症が進んだ母を、二十四時間介護の施設に入居させることになったのだ。それが最善の方法と思いつつ、その日を迎えるのはやはり辛かった。Mが撮ったシーンを観ながら、果たして自分は老いた母にカメラを向けられるかと自問した。答えはノーである。家族だからこそ撮れないこともある。思わず自分を納得させながら、私は「これはおれには撮れないな」と口の中であぐさやいた。

最後に知つてもらいたいことがある。大学四年の初めまでジャーナリストをめざしていたMは、卒業制作を行うことによつて進路を変更した。今春からは知的障害者の施設で働くことになっている。

筆者は映画監督、立教大学現代心理学部特任教授。同志社大学卒業後、数多くのテレビ・ドキュメンタリーを演出。初の長編ドキュメンタリー映画『延安の娘』はベリン国際映画祭正式招待作品となり、数々の国際映画賞を受賞。二作目の『蟻の兵隊』は記録的なロングランヒットとなる。著書に『蟻の兵隊』（新潮文庫）、『人間を撮る』（平凡社、日本エッセイスト・クラブ賞受賞）。

「あんたみたいな唐変木に、うちの本は売れないね」と若い男の客を追い返すのは、古書店の老婦人店主。名は前田紅子。木造二階建ての素っ気ない店舗に看板はなく、引き戸の脇に「古書アゼリア」と表札がかかっている。若竹七海によるミステリ『古書店アゼリアの死体』の一場面である。ロマンス小説を専門とするこの店は、気に食わない客は拒絶し、ヒロイン・相澤真琴のような気が合う客には「店を閉めよう。コーヒーを奢るよ」と言う。真琴は、紅子が繰り出すロマンス小説カルトクイズに合格したのだ。書店員の方にぜひおすすすめ。というのも、気に食わない客を怒鳴りつけて追い返すなんて、とてもできないだろうから。都内某大型書店へ週に一度は顔を出すが、何度かカウンターの若い店員を怒鳴りつけている客を見た。ねちねちと嫌みを述べ、あげくに「店長を呼べ！」とふんぞりかえる。構造的不況にともなう低賃金、重労働、理不尽な客と新刊書店の店員たちの過酷さが増している。知り合いの書店員とお酒を飲んだとき、「わたし、本が好きでこの世界に入ったけど、だんだん本がキラリになるのよね」と溜息まじりに呟いていた。東京の吉祥寺「百年」、雑司ヶ谷「ひぐらし文庫」、国立「ゆず虎嘯」、清澄白河「しまぶつ」、大阪の中崎町「本は人生のおやつです」等々は、ここ数年に生まれた古本屋。および一部古本を置く店だが、みんな店主はもと書店員。好きな本を好きな人に好きに売りたいと始めた人ばかり。イヤな客は追い返してやれ！（野）

愛書狂

「あんたみたいな唐変木に、うちの本は売れないね」と若い男の客を追い返すのは、古書店の老婦人店主。名は前田紅子。木造二階建ての素っ気ない店舗に看板はなく、引き戸の脇に「古書アゼリア」と表札がかかっている。若竹七海によるミステリ『古書店アゼリアの死体』の一場面である。ロマンス小説を専門とするこの店は、気に食わない客は拒絶し、ヒロイン・相澤真琴のような気が合う客には「店を閉めよう。コーヒーを奢るよ」と言う。真琴は、紅子が繰り出すロマンス小説カルトクイズに合格したのだ。書店員の方にぜひおすすすめ。というのも、気に食わない客を怒鳴りつけて追い返すなんて、とてもできないだろうから。都内某大型書店へ週に一度は顔を出すが、何度かカウンターの若い店員を怒鳴りつけている客を見た。ねちねちと嫌みを述べ、あげくに「店長を呼べ！」とふんぞりかえる。構造的不況にともなう低賃金、重労働、理不尽な客と新刊書店の店員たちの過酷さが増している。知り合いの書店員とお酒を飲んだとき、「わたし、本が好きでこの世界に入ったけど、だんだん本がキラリになるのよね」と溜息まじりに呟いていた。東京の吉祥寺「百年」、雑司ヶ谷「ひぐらし文庫」、国立「ゆず虎嘯」、清澄白河「しまぶつ」、大阪の中崎町「本は人生のおやつです」等々は、ここ数年に生まれた古本屋。および一部古本を置く店だが、みんな店主はもと書店員。好きな本を好きな人に好きに売りたいと始めた人ばかり。イヤな客は追い返してやれ！（野）

セルフ・ドキュメンタリーというジャンルがあるのをご存じだろうか。自らの身辺や家族を撮ることで、自分が何者なのかを突き止めようとする映像表現をいうのだが、近年若い世代を中心に、こうした作品に注目が集まっている。

いま若者たちの多くは、共有するイデオロギーなど多くの昔に失い、社会との関わりを見い出せずにいるという。漠然とした閉塞感を抱えた彼らが、興味のベクトルをより内に向かわせ、自己や家族をカメラの対象として選ぶのはある意味必然なのかもしれない。

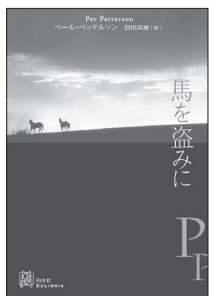
さらにセルフ・ドキュメンタリーの台頭を支えた理由の一つに、小型ビデオカメラの普及がある。いつでもどこでも気軽に映像が撮れるこのカメラは、まるで日記を書くように個人の視点で世界を

次号から「出版ダイジェスト・白水社の本棚」は3ヶ月に1度の刊行になります。次回の刊行は4月中旬です。（4面に詳細）

馬を盗みに

【エクス・リプリス】第12回配本

ペール・ペッテルソン [作]
ISBN978-4-560-09013-8



ノルウェーを代表する作家による傑作長編

一九九九年十一月、ノルウェー東部の湖のほとりにある小さな家。老境にさしかかったトロンド・サンデルは、三年前に妻をなくし、犬のリラだけを友に森のそばでひっそりと暮らすという長年の夢をかなえようとしていた。世紀の変わり目が近づくなか、ある日

顔見知り程度の隣人ラーシユが、実は少年時代の友人の弟であることに気づく。それをきっかけに、長い間封印していた半世紀前の夏の思い出が鮮明によみがえってくる。

……一九四八年七月、十五歳のトロンドは、父と二人でスウェーデンとの国境近くの小さな村へやってくる。ある朝、友達のヨンが「馬を盗みに行こう」と誘いに来る。といつても本当に盗むわけではなく、こっそり放牧場に忍び込んで地主の馬を乗り回すという他愛もない遊びだった。戻つ

たあと、町に出かけていた父から、その前日、ヨンが不注意から弾をこめたままにしておいた銃で、ヨンの弟のラーシユが双子のオッドを誤って射殺していたことを知らされる。オッドの葬儀の後、ヨンは姿を消してしまう……。

対独レジスタンスの活動家だった父、「馬を盗みに」という合言葉の意味、その後の父の失踪などが、記憶の断片として語られ、トロンドの心の痛みを際立たせる。ノルウェーを代表する作家による、みずみずしくも苦い青春―老境の物語。四十以上の言語に翻訳された世界的ベストセラー。

◇西田英恵訳 四六判 二六一頁 定価二四二五円(本体二二〇〇円)

ジョゼフ・コーネル 箱の中のユートピア

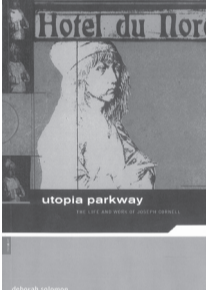
デボラ・ソロモン [著]

ISBN978-4-560-08109-9

想像力で作られた詩的世界

戦後アメリカ美術において最も魅力的で謎めいた作家の一人、ジョゼフ・コーネル(一九〇三―七二)。

彼は抽象表現主義、ポップ・アートが隆盛した四〇年代から六〇年代のニューヨークに身を置きながら、「箱」作品という小さな空間にみずから詩的世界を



原書写真

構築していった。雑貨屋や古本屋で購入した画集、映画雑誌や女優のブロマイド、レコード、天体図、模造のパイプ、コルクのボール、真鍮の輪、古切手や外国の地図、海岸で拾ってきた貝殻やヒトデ、流木のかけらなどを、ガラスの嵌め込まれた箱に収めていく。これらの作品を生涯に約八〇〇点以上制作したといわれる。

コーネルの人生は、長く過酷なものであった。裕福な家庭に生まれながら、少年期に父を失い、以後彼の生活は自身と、母、そして

障害を持つ弟ロバートを支えるために拮据された。ヨーロッパに強い憧れを抱きながら、コーネルは生涯、ヨーロッパはおろか、ほとんどニューヨークを離れることはなかった。「ユートピア・パークウェイ」という町に二九年に移り住み、七二年の最期までこの地で過ごした。

数多くのコラージュや短編映画も制作したコーネルが、自分自身のスタイルとしてなぜ箱というかたちを見出していたのか。

同時代そして後の世代の芸術家や作家に多大な影響を与えたコーネル芸術の全貌に迫る画期的な冊。

◇林寿美、太田泰人、近藤学訳 四六判 五二〇頁 定価三九〇〇円(本体三三〇〇円) 1月下旬刊

中国55の少数民族を訪ねて(新装版)

市川捷護、市橋雄二 [著]

ISBN978-4-560-08107-5 (上) ISBN978-4-560-08108-2 (下)

広大な中国には55の少数民族が公式に認定されており、人口は総数で約一億人といわれている。居住地域は辺境を中心に点在、全土の60%を占めるという。厳しい自然環境のなかで暮らす彼らは独自の文化と習俗をもち、長く継承してきた。



の周辺の人びとは、やがて時代の潮流にのみこまれ、歴史に追い越されていくことになる……。

本書は一九九二年の雲南での予備調査を皮切りに、翌年から四年間にわたり合計十一回の取材を重ね、知られざる少数民族をすべて訪ね歩いた貴重な記録である。日中共同映像取材班が「歌と踊りと祈りのある暮らし」を求め、現地で撮影したビデオテープは五〇〇時間を優に超える。

チベット族、モンゴル族、回族といった大民族から、ミャオ族、タイ族、ウイグル族など比較的知られた民族、トゥルン族、ユーク族、ホシェン族など、ほとんど知られていない民族まで、それぞれの言語、宗教文化、習俗を完全網羅。今もなお、本書を超えるフィールド



中国55の少数民族を訪ねて

世界初の試み!

本書の優れている点は、全体主義国家の制度とイデオロギーの破綻を、広く深く観察していることだ。取材の射程は、サハリン島やシベリアの炭鉱の地下から、カフカス、中央アジアの集団農場、都市部の言論・文化界、共産党中央にまで及んでいる。そして、ソ連を支配していた共産党の独裁体制、党と国家の構成体が自壊していく軌跡を、臨場感たっぷりに描くことに成功している。

◇三浦元博訳 各四六判 (上) 四二〇頁十口絵八頁 (下) 四二〇頁十口絵二四頁 各定価三三六〇円(各本体三二〇〇円) 1月下旬刊

お買い忘れはありませんか? 2010年の話題作

白水社の本棚



井上ひさし全選評

三十六年にわたり延べ三百七十余名にのぼる文学賞・演劇賞の選考委員を務め、比類なき読み込みの深さで新人を世に送り出し、中堅をさらなる飛躍へと導いてきた現代の文豪が築き上げる一大金字塔。

●定価六〇九〇円(税込)

文豪が築き上げた文学賞・演劇賞選考の金字塔
井上ひさし全選評 井上ひさし



毛沢東 ある人生

誕生から共産党創立、長征、抗日、文化大革命、死後まで、思想の変遷、世界情勢の中にも位置づけて描く、本格的な伝記。二十世紀の巨人の実像に迫る!

●(上) 定価二九四〇円(税込)
●(下) 定価三二五〇円(税込)

伝記の決定版、待望の刊行!
毛沢東 ある人生 上・下
フリップ・シヨート 山形浩生、守岡桜訳



哲学者とオオカミ

気鋭の哲学者が仔オオカミと出会い、共に生活しその死を看取るまでの驚異の報告。朝日新聞NHK週刊ブックレビューなど各種メディアで絶賛された話題作。

●定価二五二〇円(税込)

早くも8刷! 人間存在の見方を変える話題作
哲学者とオオカミ 愛・死・幸福についてのレッスン
マーク・ローランズ 今泉みね子訳



文豪の食卓

井伏鱒二と鰻、三島由紀夫と酒、埴谷雄高とトンカツ、泉鏡花とウドン……稀代の碩学が流麗な文体とともに、名作の背景に潜む食文化を披露する。知的興味あふれた書き下ろし「美味礼賛」。

●定価二二二〇円(税込)

知的興味あふれる「美味礼賛」
文豪の食卓 宮本徳蔵



ヴェルサイユ宮殿に暮らす

豪華な建物の内部は二六の居住空間からなる巨大迷路。十八世紀、ここには王を頂点に千人以上がひしめきあつて暮らしていた。雅びにみえる貴族たちの日常生活の実態とは? ●定価二五二〇円(税込)

フランス宮廷生活の実態に迫る!
ヴェルサイユ宮殿に暮らす 優雅で悲惨な宮廷生活
ウィリアム・リッチー・ニュートン 北浦春香訳



火山の下

一九三八年十一月の(死者の日)。故郷から遠く離れたメキシコの地で、酒に溺れていく元英国領事の悲喜劇的な一日を、美しくも破滅的な迫真の筆致で描く。

●定価二二五〇円(税込)

二十世紀文学の金字塔、待望の新訳!
火山の下 マルク・ラウリー
斎藤光史監訳 渡辺暁、山崎暁子訳



野生の探偵たち

没後ますます国際的評価の高まるチリの鬼才による傑作小説。謎の女流詩人の行方を探してメキシコ北部の砂漠に向かった二人の若き詩人。その足取りを証言する、五十余名の人物の声。

●(上) 定価二九四〇円(税込)
●(下) 定価二九四〇円(税込)

国際的評価の高まるチリの鬼才による傑作小説
野生の探偵たち 上・下
ロベルト・ボラーニョ 柳原孝敦、松本健二訳



スターリンの実像に迫る画期的な伝記!
スターリン 赤い皇帝と廷臣たち 上・下
サイモン・セバーク・モンテフィオーリ 染谷徹訳

「人間スターリン」を描いた画期的な伝記。権力掌握から独ソ戦、そしてその最期まで、親族、女性、同志、敵の群像を通してその実像に迫る。亀山郁夫氏推薦!

●(上) 定価四四一〇円(税込)
●(下) 定価四八三〇円(税込)

ナチ略奪美術品を救え

特殊部隊「モニュメント・メン」の戦争

ロバート・M・エドゼル [著]

ISBN978-4-560-08106-8

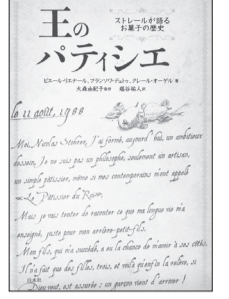


第二次大戦下の一九四三年から戦後の五年まで、連合軍の「記念建造物・美術品・古文書」部に所属していた兵士たちの呼称だ。彼らの当初の任務は、教会など歴史的建造物に対する戦闘被害を少なくすることだった。その目的は、ドイツ軍の前線が破られるにつれ、ナチの狂信者たちが略奪した美術品・文化財を探し出すことに移っていった。本書は、欧州の最前線から従軍した主に八人の「モニュメント・メン」の活躍を、本人や関係者へのインタビュー、手紙などを駆使して再現した、戦史ノンフィクションだ。

フェルメールの名画を奪還せよ

美術品を救い出すことに成功したのだ。なかにはミケランジェロやフェルメールなど巨匠の名作もあり、まさに手に汗握る展開を見せる。戦後、「モニュメント・メン」の功績は長年埋もれていたが、二〇〇七年に彼らを顕彰することを公式に認める決議がようやく米上下院議会でなされた。また、「モニュメント・メン」から家族に宛てた手紙が随所に挿まれ、破壊された都市の様子、困難を極める任務の話に加え、家族や祖国を思う気持ち、敵味方ともに同じであることを伝えていて、心を打つ。◇高儀進訳 四六判 五二頁十口絵一六頁 定価三三六〇円(本体三三〇〇円)

フランス菓子の歴史と秘話



本書は、現在の「ストレー」に残る古い記録やレシピ、その他の史料をもとに、ニコラ翁が曾孫フロリアンのために書き綴った日記という形でまとめられたフランス菓子の歴史である。日記は一七八八年八月に始まり、一七八九年五月、フランス革命勃発の二ヶ月前で終えられている。破綻寸前の国家の状態に民衆の不満が渦巻くなか、王を敬愛し、平穏な生活を求めるニコラ翁は、お菓子の世界を書き遺すという強い意志によって、鬱屈した雰囲気

王のパティシエ

ストレーが語るお菓子の歴史

ピエール・リエナール、フランソワ・デュトゥ、クレール・オーゲル [著]

パリ二区モントルゲイユ通りにある「ストレー」は、創業一七三〇年、パリでもっとも歴史のある菓子店。創業者のニコラ・ストレーは十四歳のとき元ポーランド王スタニスワフ・レシチニスキ公の厨房で働き始め、ヴェルサイユ宮殿でルイ十五世夫妻のパティシエを務めたのち、自分の店を構えた。

新グローヴオペラ事典〔普及版〕

スタンリー・セイディ [編]

ISBN978-4-560-02863-3

最高の執筆者による究極のオペラ事典、普及版にて登場。本書は、一九九二年に刊行された四巻からなる「ニュー・グローヴ・オペラ大事典」をもとに編纂された究極の一巻本のオペラ参考文庫である。作品の人気と実際の上演頻度を考慮して二六四作のオペラを選び抜き、それに関するさまざまな解説を盛り込むとともに、クロスリファレンスのための豊富なインデックスを用意してある。

オペラのすべてがこの一冊に!

最新の研究成果を盛り込んだ充実した内容を誇るとともに、読みやすさにも配慮したオペラ事典の決定版。◇中矢一義、土田英三郎日本語版監修 A5変型 一〇二二頁 函入 定価九九七五円(本体九五〇〇円)



ウイスキー・ドリーム

アイラ島のシングルモルトに賭けた男たち

スチュアート・リヴァンス [著]

ISBN978-4-560-08110-5



シングルモルト・ブームが到来して久しい。スコットランドのアイラ島は、面積六〇〇平方キロメートル、人口も三五〇〇人ほどの小さな過疎の島だが、ラフロイグやボウモアをはじめ、名だたる八つの蒸留所を擁するスコッチウイスキーの聖地。ピート(泥炭)とヨードの香りが強くスモーキーなのが特徴で、個性的なアイラモルトを偏愛する愛好家も多い。本書は、大資本による激しい買収劇が繰り返されるなか一九九四年に閉鎖の憂き目にあったアイラ島の蒸留所ブルイックラディが、情熱的な男たちの手によって二〇〇一年に操業が再開され、奇跡的なカムバックを果すまでを綴ったノンフィクションである。復活劇の立役者は、オーナーであるワイン商のマーク・レイニヤールとビ

旨さがわかる一冊

モルトづくりから、蒸留、熟成、ボトル詰めに至るまで、徹底徹底、土地に根ざした伝統的で丁寧なウイスキーづくりがこだわる、新時代を担う男たちのドラマが、生き生きとした彼ら自身の言葉によって描かれる。ウイスキー作りの奥深さ・その魅力、また味わい方も存分に語られる、まさに恰好のシングルモルト入門書。◇北代美和子訳 四六判 二五六頁 定価二五二〇円(本体二四〇〇円) 1月下旬刊

U1120 「ルソー 市民と個人」

作田啓一 [著]

ISBN978-4-560-72120-9

ルソーの母親は彼を産んだ直後に産褥熱で亡くなった。この母の死を背負って生まれた、母親のジャン・ジャックを、父イザックは「愛する妻の殺害者」として憎悪し、かつ溺愛した。後年、パリの社交界に馴染めなかったジャン・ジャックは、孤独のなかで壮大な「自己革命」に着手。そこで〈父〉と〈母〉を範としたユートピアをそれぞれ造型してゆく。ルソーはフランス革命にどの程度、影響を与えたか? 自己の内面の探究が、どうして外部を駆使して徹底解剖した「文芸の社会学」の記を駆使して徹底解剖した「文芸の社会学」の記念碑的著作!

U174 「ほとんど記憶のない女」

リア・ア・テイヴィス [作]

ISBN978-4-560-07174-8

「とても鋭い知性の持ち主だが、ほとんど記憶のない女がいた」わずかに数行の箴言・禅問答のような超短編から、寓話的なもの、詩やエッセイに近いもの、日記風の断章、さらに私小説、旅行記にいたるまで、多彩で驚きに満ちた「異形の物語」を収めた傑作短編集。カウボーイとの結婚を夢みていた自分を妄想する「大学教授」、自分の料理を気に入らない夫の好みを記憶を辿りながら細かく分析していく「肉と夫」、思考する〈私〉の意識とメモをとる〈私〉の行為を、まったく主語のない無機質な文体で描く「フーコーとエンビツ」他、全五十一編を収録。「アメリカ小説界の静かな巨人」デイヴィスの、目眩を引き起こすような思考の迷路や言葉のリズム、また独特のひねくれたユーモアは、一度知ったらクセになる。

担当編集者による 編集ごぼれ話

スタインベックの『二十日鼠と人間』を下敷きにした伝説的傑作戯曲です。東北弁とびかう農業パラダイスがグロテスクな笑いで描かれ、そこにある経済システムがあぶりだされてゆく絶妙な物語なのですが、長らく「知る人ぞ知る」状態でした。二〇一〇年の末に再演されるにあたり、おかげさまでめでたく増刷できた次第です。

一九九九年に発表した作品を二〇〇一年に単行本として刊行するという、ビミョーな時間差を鑑み、帯のキャッチコピーは当初、松尾さんからの発案で、「あえて、今」でした。

宮藤官九郎さん、阿部サダヲさん、荒川良々さん……劇団・

普遍的な面白さをそなえた名作

大人計画の皆さんは、テレビや映画やCMに引張りだこそすね、まさに今。

〈ついでに〉劇団員にあてがきをしたたりその時々風俗を戯曲に盛り込みがちなのボクですが、この作品は、そこそこフラットに読める珍しい1品である、いい悪いはともかく、感じている松尾なのでよろしくお願ひしますね。と今回の重版でアップデイトしたあとがきにもありますが、読み返してみると、ほんと、普遍的な面白さをそなえた名作です。

本谷有希子さんの『来来来』を観劇したときに連想したのも、「母を逃がす」でした。

(担当編集者・W)

話題の本

たちまち重版! 輝ける文明の歴史

ビザンツ 驚くべき中世帝国

ジュディス・ヘリン著 井上浩一監訳 ●定価 4620円(税込)

ローマ帝国の継承者として、千年にわたり東地中海に栄えたビザンツ帝国。その特徴を28項目から立体的に解説する。



朝日新聞・別刷り「be」(11/27付)で紹介され話題!

《地球のカタチ》にぎやかな外国語の世界

黒田龍之助著 ●定価 1575円(税込)

世界にはたくさんことばがある。多くの外国語に触れてきた著者による、「ことばの楽しさ&面白さ」いっぱいの一冊。

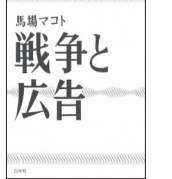


広告のもたらす力と戦争の悲しい宿命

戦争と広告

馬場マコト著 ●定価 2520円(税込)

広告依頼主は内閣情報局。仕事は第二次大戦での戦意高揚をはかるポスター制作など。引き受けた山名文夫ら、当時の精鋭が取り組んだ最前線の成果を通して考える、戦争の悲しい宿命。



Q953 「香水」

ジャンニククロード・エレナ著

ISBN978-4-560-50935-1

著者は、エルメスの専属調香師。ヴァン・クリーフ&アーペルやブルガリの名香も手がけた人気調香師だ。彼が、その手のうちを本書で明かす。たとえ

ば、調香師は香りを組み立てる素材になるさまざまな匂いをストックしておくのだが、彼独自のコレクションはどのようにつくられていったのか？ 創作のアイデアはどのようなように生まれるのか？ どのようにして匂いを記憶するのか？ 日頃どのようなことを心がけているのか？……彼の代表作「地中海の庭」の創作過程も語られる。まるで調香の現場に立ち会っているかのような気になされる。くわえて、香水の歴史、嗅覚のしくみから、調香師の訓練と仕事、香水の市場とマーケティング、香りの知的財産権保護にいたるまで、香水にかかわることすべてが手ぎわよくまとめられている。

◇芳野まい訳 新書判 一五六頁 定価二〇三円（本体一〇五〇円）

Q954 「性倒錯」

ジェラルド・ポネ著

ISBN978-4-560-50954-8

そもそも、性倒錯とはなにか？

なぜ性倒錯を解き明かさなければならぬのか？ それは、倒錯の実体を解き明かすことが、人間の精神現象の思いがけない本質に到達するためのひとつの方法だからである。本書は、このような問題提起から始まり、倒錯一般の歴史的位置づけ、定義と分類を経て、サディズムとマゾヒズム、フェティシズムと服装倒錯、露出症と窃視症をそれぞれ対立概念ととらえ、さらに極端な倒錯について解説する。きわめて具体的にわかりやすく説明されていくので、それぞれの心理状態を理解することができ、治療の是非、行なわれるべき治療のアプローチの輪郭が浮かびあがってくる。

◇西尾彰泰、守谷てるみ訳 新書判 一六〇頁 定価一〇三円（本体一〇五〇円） 1月下旬刊

！本紙をご購読いただいているみなさまに大切なお知らせ

「出版ダイジェスト・白水社の本棚」は、3ヶ月に1度の刊行に変わります。

日頃のご愛読、厚く御礼申し上げます。前号でもお知らせしました通り、これまで隔月（1・3・5・7・9・11月）刊でお届けしてまいりました本紙「出版ダイジェスト・白水社の本棚」ですが、次号の4月号より、3ヶ月に1度（1・4・7・10月）の刊行に変わります（3月の刊行はございませんのでご注意ください）。4月号からは、紙面を大幅増ページ・リニューアルし、ますます充実した内容をお届けしてまいりますので、これからも変わらぬご愛読、心よりお願い申し上げます。

- ① ページ数倍増！ 8ページになります！
② 豪華新連載開始！ 新刊紹介以外の読み物がますます充実！
③ 文字が大きくなって、ぐっと読みやすくなります！

【従来の文字の大きさ】

文字が大きくなって、ページ数も増えるので、情報は変わりません！ リニューアル第1号となる次号は4月中旬刊行予定です。どうぞご期待ください。

【リニューアル後の文字の大きさ】

文字が大きくなって、ページ数も増えるので、情報は変わりません！ リニューアル第1号となる次号は4月中旬刊行予定です。どうぞご期待ください。

リニューアル3つのポイント

古いMacBook Airを使っているんですけど、デスクトップを飾る背景画は、このところずっと、もぎたての赤いトマトでした。パソコンを起動するたびに、スリムな液晶画面の中からは、めざましく豊潤なイメージが立ち上ってくるという按配——ついに刊行が始まった新刊ベルクソン全集の象徴として、翻訳者の竹内信夫先生が（できる個人完訳です。）

営業部だよ

隔月で営業のあれこれをお伝えしてきたこのコーナーも次号からは三ヶ月に一度になります。三ヶ月ごとになると季刊と同じです。これからはもう少し季節の話題もお伝えできればと思います。でも今回は今年、二〇二一年について考えてみます。毎年、年末年始になると、来年（今年）は有名な人の生誕何年、没後何年になるだろうかという話題が上ります。五十年、百年など切りのよい年であればイベントが開かれたり、関連書が出版されたりと、世間も盛り上がり売ります。

語学書

「ニューエクスプレス モンゴル語」CD付 橋本勝 [著]



ISBN978-4-560-08549-3

大相撲界を席巻しているモンゴル力士は、その強さだけでなく日本語の上手さでも私達に驚きを与えているが、その日本語力の秘密の一端が、主語—目的語—動詞という文の構造を始め、日本語と多くの類似性を持つモンゴル語の特質にあることは間違いない。チンギス・カンや大草原のイメージで日本人に知られるモンゴルは、その類似性の強い言葉を学ぶことでなお一層親しい存在になっていくだろう。◇A5判 137頁 定価2730円（本体2600円）

「ニューエクスプレス フィリピン語」CD付 山下美知子 [著]



ISBN978-4-560-08550-9

フィリピン語はタガログ語を母体としたフィリピンの国語です。日本に最も近い国のひとつフィリピンは、太平洋に浮かぶ七千以上の島々からなり、美しいビーチや珊瑚礁が名高い一方で、アジアと欧米の文化が一堂に会する多面的な魅力も持っています。アルファベットは英語とほぼ同じ、日本人にも発音しやすく、フィリピンの人々の心に触れられる言葉を学んでみませんか。◇A5判 151頁 定価2520円（本体2400円）

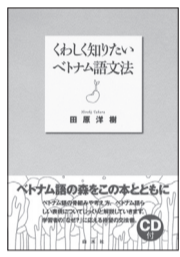
「ニューエクスプレス エジプトアラビア語」CD付 長渡陽一 [著]



ISBN978-4-560-08551-6

中東・北アフリカの20か国以上で公用語とされ、イスラム教徒の共通語でもあるアラビア語。しかし、ふだんの生活で話されることばは「標準アラビア語」とは少し異なり、また地域によっても発音・語彙に違いがあります。そんな多様性をもつアラビア語世界のなかでも日本人が多く訪れるエジプトを、もっと身近に感じたい人のための、「話しことば」の入門書です。◇A5判 150頁 定価3150円（本体3000円）1月下旬刊

「くわしく知りたいベトナム語文法」CD付 田原洋樹 [著]



ISBN978-4-560-08547-9

学習者が間違えやすい点を挙げながら、学習者の「なぜ？」に応える「読んでわかる！」文法書。ベトナム語の骨組みや考え方、ベトナム語らしい表現について、最初歩の段階から人間関係や喜怒哀楽に関する表現まで、じっくりとゆっくりと解説していきます。ベトナム人が大好きな表現を多数掲載。付属CDには首都ハノイを中心に話される北部方言のほか、代表的な方言も数多く収録されています。◇A5判 227頁 定価3150円（本体3000円）

本の十字路

ツアンポー峡谷探検なんてどうの昔の話かと思つたら、『空白の五マイル』（集英社）の角幡唯介氏は二〇〇二年と〇九年に東チベットの最奥のこの地に足を踏み入れていた。英国のプラントハンターで、『ツアンポー峡谷の謎』や『青いケシの国』の著者でもあるキングドゥン・ウオードが一九二四年にこの地を歩いて以来、噂されてきた「幻の大瀑布」の存在を確かめるためである。人跡未踏の区域がまだ残されていたことに驚くと同時に、現品切れ中のキングドゥン・ウオードの著作が急に身近に感じられた。角幡氏は自らの探検を正直に「楽しいことなど何ひとつない」と記したうえで、最後は命がけの「脱出行」だったという。それより八十年以上も前に同じ地域を歩いた先人たちの苦勞はいかほどであったか。（クロポト）

ことば紀行

第5回 花本知子 イタリア語

【主な使用地域】イタリア、スイスの一部地域
【話者数】約6000万人
【使用文字】ラテン文字
【あいさつしてみよう】Buongiorno. フォンジョルノ。（おはよう／こんにちは）



小学校の休憩時間、中庭で遊ぶ子供たち

イタリア人には、まとまった話をするのが上手な人が多い。たとえばスピーチ。以前、数年勤めたアルバイト先を辞める際、送別会をひらいてもらったことがあった。イタリア人も多くいた職場で、その何人かが送別のスピーチをしてくれた。どのスピーチもエピソードをうまくとりこんで「ありきたり」とはほど遠い、実にオリジナルで印象的なことばを贈ってくれた。いくつかの送別のスピーチのあと、私も「何かひとつと挨拶を」と頼まれた。何の準備もなく、その場で頭が高速回転して気の利いたスピーチがひねり出せたわけでもなく、イタリア人たちの個性的なことばと対照的な、実に「ありきたり」な挨拶をしたことを思い出すと、今でも恥ずかしい……。スピーチの類だけでなく、何かを説明する、論述することにかけてもイタリア人は長けていると思う。文学作品について、映

画について、絵画について、歴史的なある事件について、筋道を立てて口頭でよどみなく表現する人がいる。私はとっさに順序良く話を組み立ててしゃべるのが苦手なので、そういうイタリア人たちを見るとうらやましい限りだ。イタリア人のこの「口が達者」なさまは、学校教育のスタイルと大きく関係があるから

話上手のイタリア人

しい。筆記試験だけではなく、口答試験が多いのだ。大学だけにとどまらず、小学校からすでに「口述」の訓練が始まっている。以前滞在したイタリアの家庭で、小学5年生の子供が、地理と理科のテストに備えて勉強するのに付き合ったことがある。その勉強方法は、たとえば教科書に載っている「アルゼンチン」についてのデータを頭

に入れて、何も見ない状態で「アルゼンチンとはどんな国かを述べよ」という問いに答えられるよう、何度も練習することだった。「アルゼンチンの主な産業は何か」「アルゼンチンの首都はどこか」といった、ぶつ切りの「一問一答」に答えられればいいのかではなく、その国についてゼロから「語る」ことが求められている。教科書の説明文を丸暗記するというよりは、暗記した必要データを組み合わせて自分なりにまとめた説明ができればそれでいいのだ。理科のテスト勉強でもやはり、「腎臓」「肝臓」などの体の器官について教科書の説明をまとめたノートを見ながら、何も見ずに説明ができるよう口述練習していた子供たちを見ていると、私もまずは「小学校」に留学したくなった。（京都外国語大学講師）